

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4単位)	3. 科目番号	SBMP2156
2. 授業担当教員	青木 正		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	ソーシャルワークⅠの単位を修得した後に履修することが望ましい		
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業の初めに、前回の復習を兼ねた、小テストを実施する。 2. 授業中の課題プリントを授業終了時に、提出を求める。 3. 前半期と後半期にそれぞれ1回ずつ（計2回）レポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。 <p>予習や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座7）』第3版、中央法規出版、2015。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの目標について理解し、説明することができたか。（知識・理解） ・8つの目標について思考し、考察を深めることができたか。（思考・判断・実践） ・8つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。（関心・意欲・態度） <p>○評定の方法 レポート課題（25%）定期試験（50%）、受講態度（25%）による総合的評価</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は相談援助の理解に必要なクライアント・システムやネットワーク、相談援助の過程を体系的に身につけることを目的としています。具体的には、クライアントの見方、アセスメントの方法や支援計画の立案、評価および修正までの流れを把握し、実践の場で応用でき、利用者1人ひとりについて判断できるようになることを目的とするものです。本授業を通して、実習や演習につなげられるように学んでいただきたいと思います。</p>		
13. オフィスアワー	初回の講義において発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（講義内容、講師紹介等） 相談援助とは①（ソーシャルワーカーの具体的な事例、仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み）	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。
		事後学習	ソーシャルワークの定義についてまとめる。
第2回	相談援助とは②（ソーシャルワークを構成する要素、ソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織）	事前学習	教科書の pp.9～26 を熟読し、ソーシャルワーカーの仕事について理解する。
		事後学習	ソーシャルワークの方法・技能についてまとめる。
第3回	相談援助の構造と機能①（ソーシャルワークの構造）	事前学習	教科書の pp.28～37 を熟読し、人と環境との交互作用について理解する。
		事後学習	社会資源の枠組みについてまとめる。
第4回	相談援助の構造と機能②（ソーシャルワークにおけるニーズ、ソーシャルワークの機能）	事前学習	教科書の pp.38～51 を熟読し、ソーシャルワークにおけるニーズについて理解する。
		事後学習	ソーシャルワークの機能についてまとめる。
第5回	人と環境との交互作用①（実践における人と環境、人にとっての環境の意味）	事前学習	教科書の pp.54～58 を熟読し、人と環境について理解する。
		事後学習	人にとって環境についてまとめる。

第6回	人と環境との相互作用②（人と環境の全体性、システムの作動とサイバネティクス、システム理論による一つのソーシャルワーク論）	事前学習	教科書の pp.58～67 を熟読し、システム理論について理解する。
		事後学習	システム理論からのソーシャルワークについてまとめる
第7回	相談援助における援助関係①（援助関係の意義、援助関係の形成プロセスに影響する要因）	事前学習	教科書の pp.70～80 を熟読し、ソーシャルワークのミクロ、メゾ、マクロについて理解する。
		事後学習	ソーシャルワーカーが準ずる原則についてまとめる。
第8回	相談援助における援助関係②（援助構造と援助関係、援助関係の質と自己覚知、援助関係とミクロからマクロ実践領域）	事前学習	教科書の pp.81～93 を熟読し、援助の構造について理解する。
		事後学習	援助関係の効用と限界についてまとめる。
第9回	相談援助の展開過程Ⅰ①（相談援助の展開過程の流れ、ケース発見）	事前学習	教科書の pp.96～106 を熟読し、相談援助のプロセスについて理解する。
		事後学習	ケースの発見についてまとめる。
第10回	相談援助の展開過程Ⅰ②（受理面接、問題把握からニーズ確定まで、ニーズ確定から事前評価まで）	事前学習	教科書の pp.107～121 を熟読し、インテークの段階について理解する。
		事後学習	ニーズの確定についてまとめる。
第11回	相談援助の展開過程Ⅰ③（事前評価から支援標的・目標設定まで、支援標的・目標設定から支援の計画まで、支援の計画から支援の実施まで）	事前学習	教科書の pp.122～136 を熟読し、支援目標の設定について理解する。
		事後学習	教科書の事例における支援計画を完成させる。
第12回	相談援助の展開過程Ⅱ①（経過観察、再アセスメントと支援の強化）	事前学習	教科書の pp.138～145 を熟読し、モニタリングについて理解する。
		事後学習	再アセスメントについてまとめる。
第13回	相談援助の展開過程Ⅱ②（支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、予防的対応とサービス開発）	事前学習	教科書の pp.146～153 を熟読し、支援の終結について理解する。
		事後学習	予防的対応についてまとめる。
第14回	アウトリーチの意義と目的	事前学習	教科書の pp.156～160 を熟読し、アウトリーチについて理解する。
		事後学習	アウトリーチの機能についてまとめる。
第15回	アウトリーチの方法と留意点	事前学習	教科書の pp.161～165 を熟読し、アウトリーチの具体的方法について理解する。
		事後学習	アウトリーチを行うための留意点についてまとめる。
第16回	契約の意義と目的	事前学習	教科書の pp.168～172 を熟読し、契約について理解する。
		事後学習	ソーシャルワークにおける契約の意義についてまとめる。
第17回	契約の方法と留意点	事前学習	教科書の pp.173～179 を熟読し、契約の留意点について理解する。
		事後学習	事例に基づいて文書による契約書を作成する。
第18回	相談援助のためのアセスメントの技術①（ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助的関係、面接…）	事前学習	教科書の pp.182～188 を熟読し、アセスメントの特性について理解する。
		事後学習	アセスメント面接における言語反応について、ロールプレイの結果をまとめる。
第19回	相談援助のためのアセスメントの技術②（アセスメントで得るべき情報 16 項目と視覚化できるアセスメントツール、アセスメント面接で得た情報の使い）	事前学習	教科書の pp.189～204 を熟読し、アセスメントで得るべき情報について理解する。
		事後学習	教科書の事例についてまとめる。
第20回	介入の意義と目的	事前学習	教科書の pp.206～212 を熟読し、介入の意義について理解する。
		事後学習	介入のターゲットについてまとめる。
第21回	介入の方法と留意点	事前学習	教科書の pp.213～221 を熟読し、介入の方法について理解する。
		事後学習	介入の技術や技法についてまとめる。

第22回	相談援助のための経過観察①（モニタリング）、再アセスメント）	事前学習	教科書の pp.224～238 を熟読し、モニタリングについて理解する。
		事後学習	再アセスメントの手順についてまとめる。
第23回	相談援助のための経過観察②（効果測定、評価の技術）	事前学習	教科書の pp.239～248 を熟読し、効果測定について理解する。
		事後学習	サービス開発についてまとめる。
第24回	相談援助のための面接の技術①（相談援助における面接の目的、相談援助における面接の展開）	事前学習	教科書の pp.250～260 を熟読し、面接の目的について理解する。
		事後学習	面接においてワーカーが行うことについてまとめる。
第25回	相談援助のための面接の技術②（面接において用いる技術とコミュニケーション、相談援助における面接の形態）	事前学習	教科書の pp.261～268 を熟読し、面接に用いる技術について理解する。
		事後学習	面接の形態についてまとめる。
第26回	相談援助のための記録の技術①（記録の意義とその活用目的、記録の種類と活用）	事前学習	教科書の pp.270～283 を熟読し、記録の意義について理解する。
		事後学習	記録業務の4つのステップについてまとめる。
第27回	相談援助のための記録の技術②（記録の方法とIT化、記録の技術の実際例と今後の課題）	事前学習	教科書の pp.284～293 を熟読し、記録の方法について理解する。
		事後学習	事例に基づいて記録を作成する。
第28回	相談援助のための交渉の技術①（交渉の意義と目的）	事前学習	教科書の pp.296～303 を熟読し、交渉について理解する。
		事後学習	交渉の成果を最大にするための工夫についてまとめる。
第29回	相談援助のための交渉の技術②（交渉の方法と留意点、プレゼンテーションの技術）	事前学習	教科書の pp.304～315 を熟読し、交渉の技術について理解する。
		事後学習	他機関との交渉についてまとめる。
第30回	これまでのまとめ、国家試験について	事前学習	教科書やこれまでの講義資料を熟読し、これまでの内容を復習する。
		事後学習	国家試験過去問題を復習する。
期末試験			